

記 録

「旧制広島高等学校の青春―総合科学部の源流―」展示コーナー開設及び広島高等学校創立九〇年記念大会の記録

小宮山 道 夫

企画の経緯

広島大学総合科学部の前身にあたる旧制広島高等学校は、平成二五（二〇一三）年一〇月に創立九〇年を迎えた。旧制広島高等学校同窓会事務局を担っている大学院総合科学研究科では、これに先立つ平成二四年四月、研究科内に常設展示コーナーを設けることを企画し、旧制広島高等学校資料（以下、広高資料）を所蔵する文書館に対し協力要請を行った。

同月一三日には吉田光演総合科学研究科長、嶋市敬総合科学研究科運営支援室長、山崎護総合科学研究科運営支援グループ総括主査が文書館を訪れ、広高資料の確認と展示に向けた打合せを行った。吉田研究科長発小池文書館長宛五月一七日付文書で正式に展示協力への依頼を受けることとなり、以後展示に関する打合せを重ねた。

展示方針の策定

当初は旧制広島高等学校の文化・校風を現代の学生たちにわかりやすく伝えるため、文書館が将来の常設展示室新設のために所有していた大型展示ケースを移設し、特徴的な実物資料を多用した展示内容をめざした。しかし総合科学研究科との検討の過程で、展示スペースの候補地が休業期間や夜間でも自由に出入りすることのできるオープンスペースであり、職員の日も届きづらいことから、セキュリティの観点から実物展示の内容については慎重を期することが必要となった。

当初の内容を貫くか、資料保全を優先するか、そのバランスをどこにとるかを考慮し、一時は全展示品を複製品とする案や内容の大幅改変、あるいは設置場所の変更など企画は二転三転した。最終的には複製現存する資料から展示品を厳選し、小型の展示ケース三台に可能な限り実物を展示する方針で固まった。これは第一義である現代の学生の目に触れる場所に展示することを優先し、その前提のもとで最大限実物資料を展示するという選択をしたためである。

管理体制の整備

常設展示は文書館としても初めてのケースであり、設置場所の湿度環境の把握と紫外線対策のための展示ケースへのフィルム施工、展示ケース内の調湿保存材や温湿度管理機器の調達など、展示するまでの事前準備にも時間を割く必要があった。さらに展示ケースの搬入や展示物の配置は事務の繁忙期を避け、かつ学生のいない時期に設定するよう要望もあったといった事情により準備期間を多く要した。

また、文書館と展示スペースとが離れ、日常的な展示状態の監視は総合科学研究科の職員に委託せざるを得ないことから、将来の維持管理に関する取り決めを確認するため協議を重ね、一月二十五日付で総合科学研究科と文書館との間に「旧制広島高等学校の関係資料展示における管理等に関する覚書」を締結し管理上での万全を期した。このため最終的な展示開設日は平成二五年一月一日となり、総合科学研究科の主催により同日に関係者を集めて展示報告会（披露会）が開催されることが決定した。

展示の概要

展示内容は①広高の設置、②広高事件、③広高での教育、④広高生の活動、⑤薫風寮の青春、⑥戦争と原爆、⑦広高の最後、の七つのコーナーを設け、資料三三点と解説パネル、関連年表で構成した。開校記念の絵はがきやメダル、学徒出陣の壮行会の写真や、元東映名誉会長

の故岡田茂氏がその当時在校生代表としてしたためた激励文の写し、寮での生活風景の写真など、視覚に訴える工夫をするともに、簡便に広高で行われていた教育を解説し、総合科学研究科にその精神や文化がどのように継承されているのかを示すことに努めた。

前述のとおり会場の都合による制約はあるが、展示内容は今後適宜更新を続ける予定である。そしてここでの経験を蓄積し、将来の本格的な文書館常設展示室の開設に資することとしている。

展示報告会の実施

展示報告会には広島高等学校同窓会から同窓会長尾形幸雄氏（二四修文甲）、同会元事務局長天野實氏（広島大学名誉教授・元総合科学部長・二五理一）、元同窓会長で文書館顧問の平岡敬氏（元広島市長・二三理乙一）、総合科学部同窓会長前延国治氏が来賓として招かれた。広島大学からは浅原利正学長以下、総合科学研究科より吉田光演研究科長、岩永誠副研究科長、嶋市支援室長、文書館より小池館長と小宮山が参列した。

研究科長室で談話の後、展示コーナーである総合科学研究所事務棟一階ロビーに移動して展示解説と記念撮影を行った。何事にも一言をお持ちの同窓会の皆さんが予想以上に喜んでくださった様子に、制作側としてもようやく胸をなで下ろすことができた。報告会の模様については広島大学WEBに掲載されるとともに、同年一月一五日の「中国新聞」にも写真付き記事で報じられた。

創立九〇年記念大会への参加

一〇月一二日には、ホテルグランヴィア広島三階宴会場「天平の間」を会場に、一〇〇名を超える広島高等学校同窓会員の参集のもと、創立九〇年記念大会が開催された。「母校の「卒寿」を祝い、同窓会本部の活動はこれをもって一応幕引きとしたい」(尾形幸雄「会長あいさつ」〔広島高等学校同窓会報〕第四四号、一頁所収)より)との覚悟での開催であった。

記念大会には広島大学からは浅原学長、吉田総合研究科長に続き、小池館長と小宮山が来賓として招かれた。開催にあたっては文書館に所蔵する広島資料から、被爆した「広島の高」や試合等の応援に使われた「大杓文字」、校旗、幟旗を会場に持ち込み、見て触れて往事を追懐するよすがの提供に努めた。また、会場では同窓会制作の記念DVDの上映も行われたが、その撮影は文書館でも行われ、広島資料も効果的に活用され会場に映し出された。さらに当日の記念品としてA四判一六頁分の小冊子『旧制広島高等学校の歴史—年表とトピックス—』を文書館が作成し、会員に配布することとなった。

感謝状の重み

記念式典は「広島の高」の点鐘を皮切りに物故者への黙祷や式辞・祝辞と厳肅な雰囲気の中進められた。その式典において、これまでの広島資料の保存・活用に対する文書館の取り組みに対し、同窓会より

感謝状の贈呈を受ける榮譽を得た。望外の喜びであり、今後の継続的な保存・活用について身の引き締まる思いである。

後半の祝賀会は打って変わって賑やかな宴となった。薫風寮寮歌合唱からはじまり祝杯が挙がり、「怒濤の譜」「征旅遠く」といった寮歌の数々が絶え間なく歌われ、時に放歌された。齢八〇を超える大先輩方とは思えぬ野太い声に、喜色あふれる朗らかな顔、旧制高等学校生の面目躍如たる威風いよいよ高く、圧倒されること頻りであった。宴が進むとともに同窓会の場で見ることのできない名物「田螺どの踊り」や第二寮歌といわれる「ラッチキ節」の披露もあり、場内は大いに盛り上がった。

今大会で同窓会としての活動は停止するため、このような方々と寮歌「銀燭揺らぐ」を合唱するように、同じ時間・空間を共有できる喜びに包まれる機会も二度と来ないことを思うと寂寥感を禁じ得ない。この後は広島資料を受け継ぎ、広島生に接することのできたわれわれが、彼らの精神・文化を次代に引き継ぐ役割を担っていかなければならないと決意を新たにした。

「旧制広島高等学校の青春—総合科学部の源流—」展示コーナーのお知らせ

展示会場 広島大学大学院総合科学研究科 事務棟一階ロビー
〒七三九一八五二一 東広島市鏡山一丁目七番一号
一般公開・無料

お問い合わせ先

(会場について)

広島大学総合科学研究科運営支援グループ

電話 〇八二一四二四一六三〇二

(内容について)

広島大学文書館

電話 〇八二一四二四一六〇五〇



「旧制広島高等学校の青春—総合科学部の源流—」展示コーナー
(総合科学研究科 事務棟 1階ロビー)



広島高等学校創立90年記念大会祝賀会のひとこま
(平成25年10月12日 ホテルグランヴィア広島)